



# 仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

## 個人投資家様向け会社説明会資料

2026年2月28日

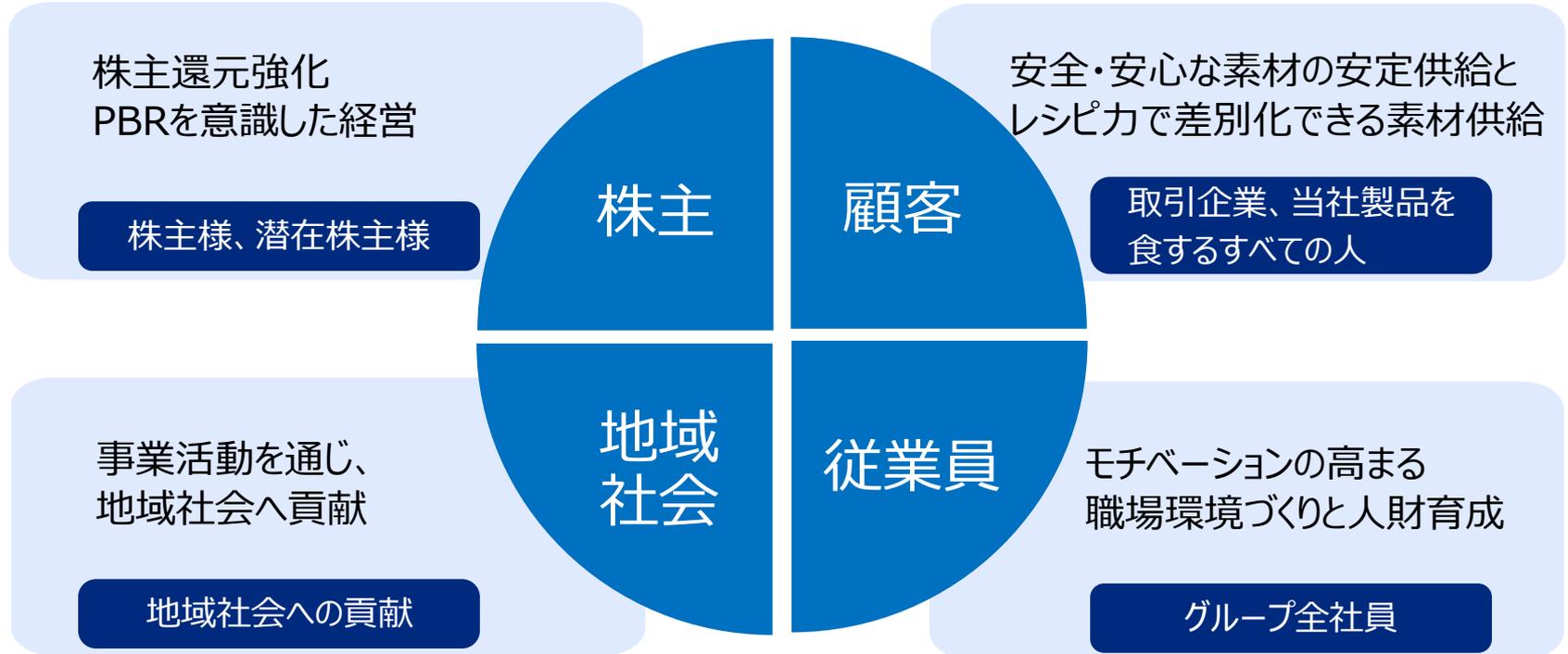
# 目次

---

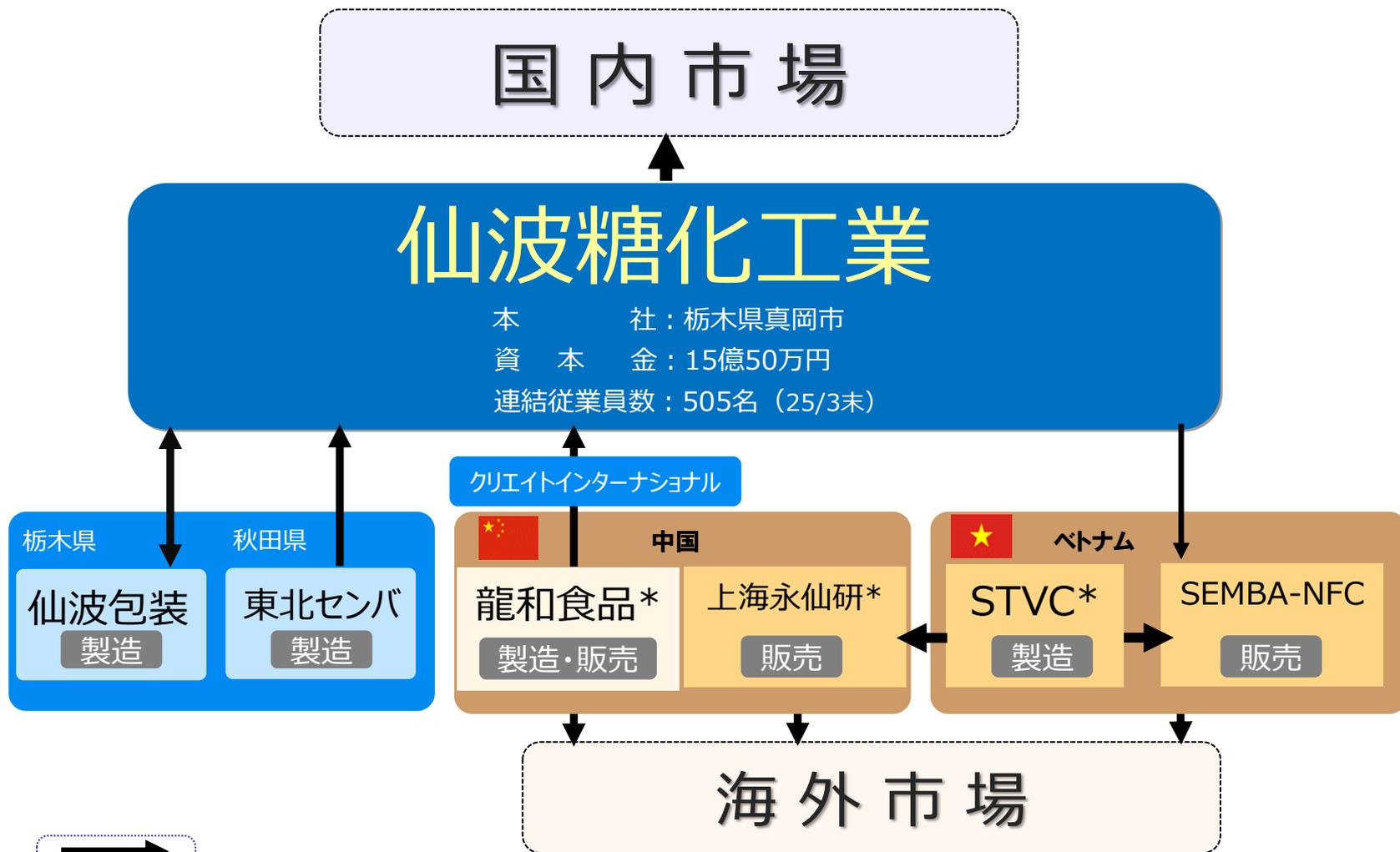
I	会社概要	P 2
II	成長戦略	P14
III	2026/3期業績予想	P20
IV	株主還元	P26
	参考資料	P29

# I . 会社概要

100年企業に向けた強固な基盤構築



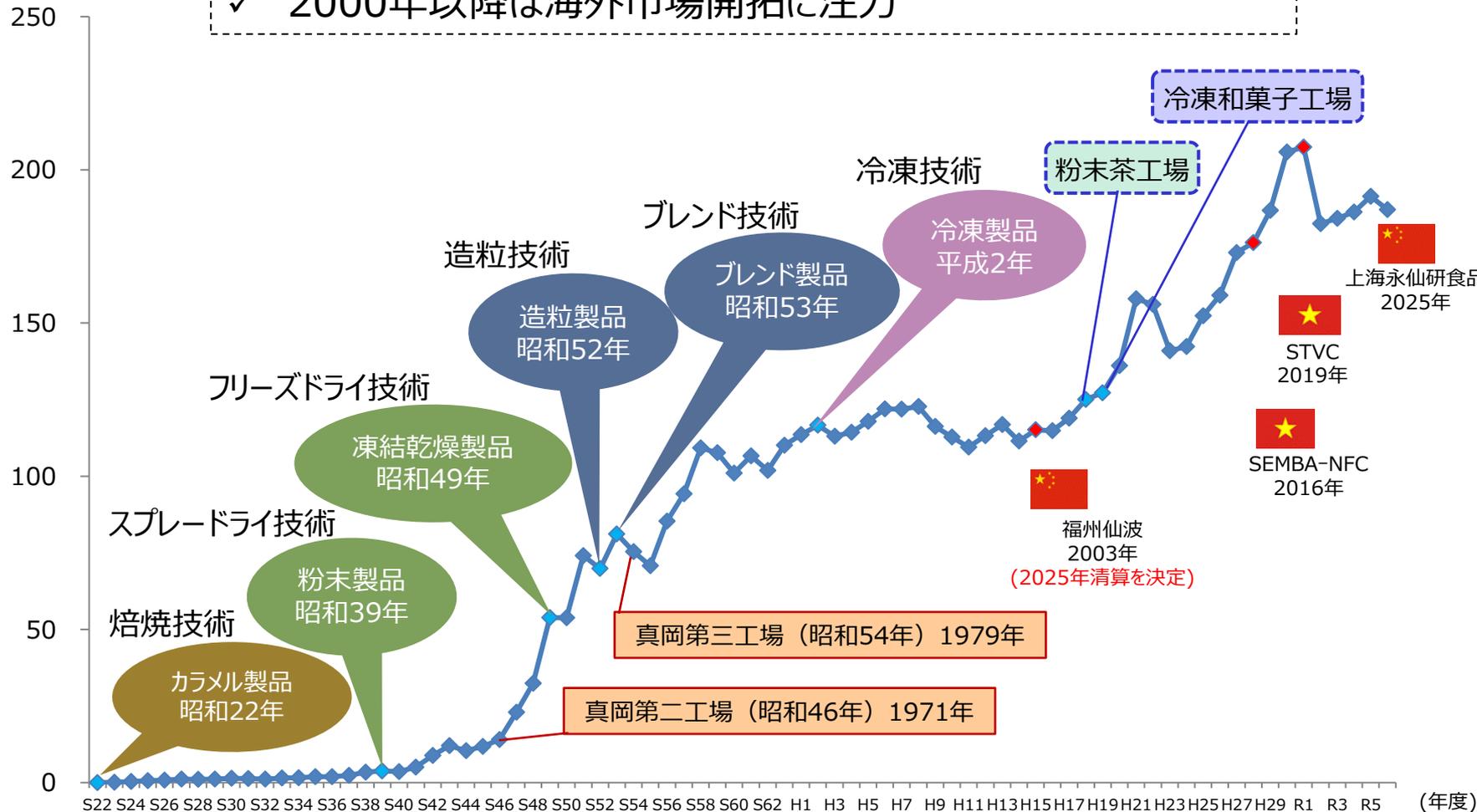
より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす



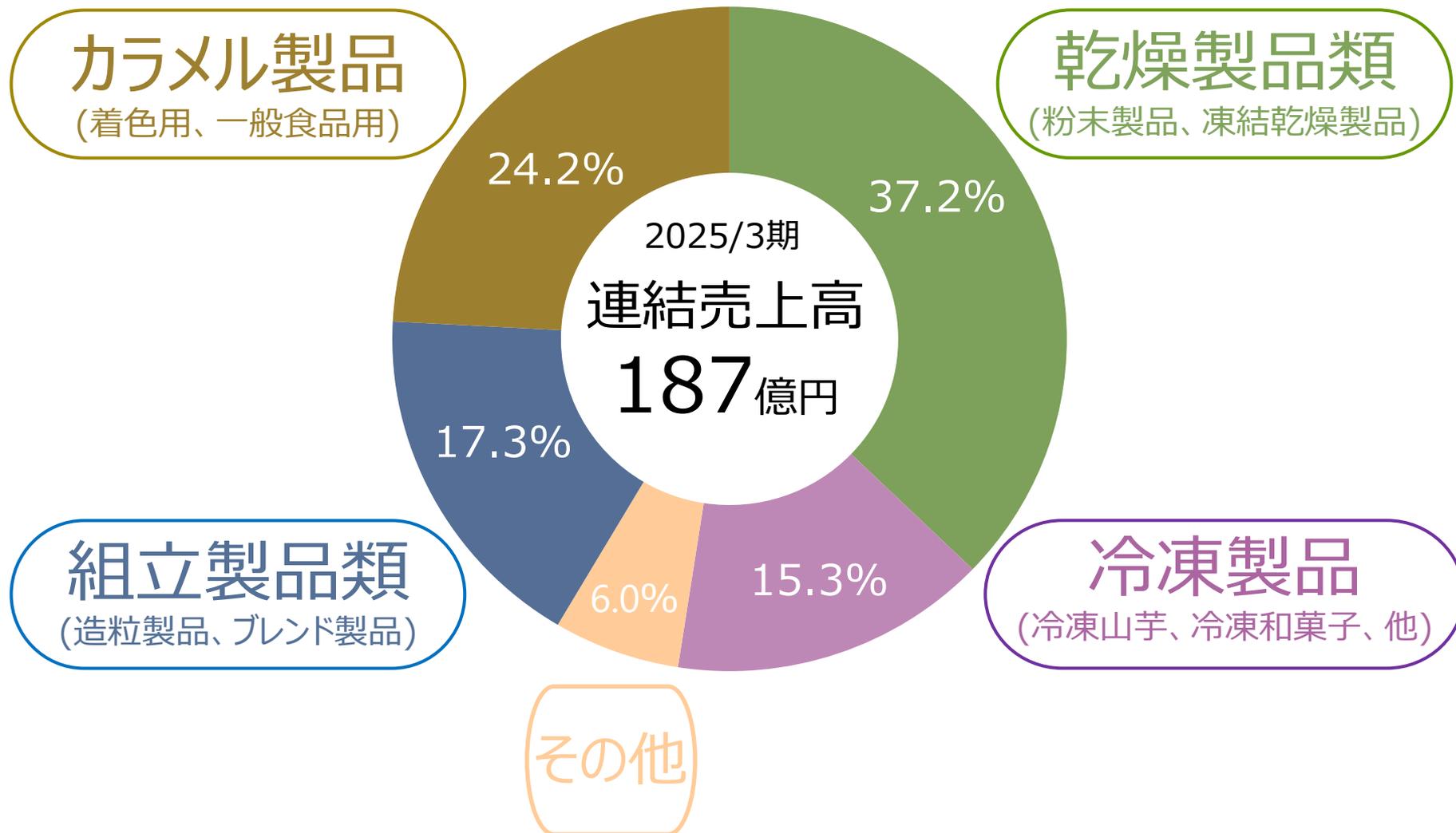
STVC\* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED  
龍和食品\* : 福建龍和食品実業有限公司（持分法適用会社）  
上海永仙研\* : 上海永仙研食品有限公司（2025年5月設立）

- ✓ カaramel製品で1946年に創業（設立は1947年）
- ✓ 高度経済成長期を経て食の多様化とともに技術基盤を構築
- ✓ 2000年以降は海外市場開拓に注力

売上高  
(億円)



製品区別別 売上構成



### ● カスタードプリン、 炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



### ● アイスクリームや デザート にも…



### ● インスタントラーメン にも…



### ● インスタントコーンスープ にも…



### ● 粉末茶 にも…



### ● 即席味噌汁 にも…



### ● お好み焼き にも…



### ● とろろそば にも…



### ● 医療施設や介護施設 にも…



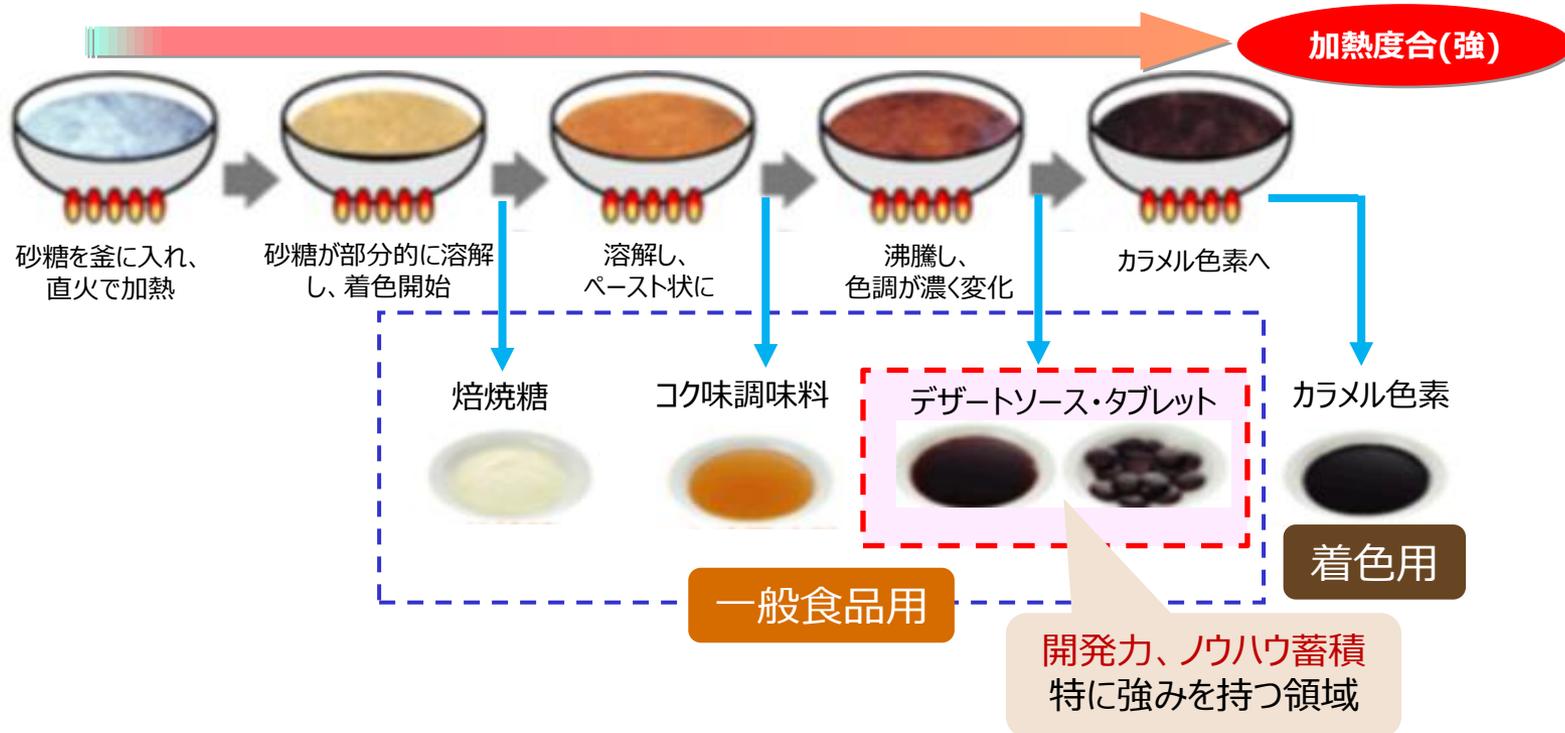
- ▶ キャラメルは、食用糖類の加熱処理物であり、加熱処理の度合と利用法により、  
**「食品として扱われるもの」**と**「食品添加物として扱われるもの」**に大別

(一般食品用)

(着色用)

焙焼技術とは

- ・糖を独自のノウハウで加熱し、甘味・苦味・色合いで多様な製品を作り分け
- ・さらに、お客様の使用用途に応じて液状製品と固形製品に作り分ける



- 創業商材。国内シェアトップ
- 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け
- 高付加価値のデザート向け新製品開発と提案営業に注力
- 海外需要の取り込みで成長を目指す

着色用

- ・清涼飲料やアルコール飲料等の飲料向け
- ・ソースやタレ類、カレー等に幅広い需要

一般食品用

- ・プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- ・高級洋菓子やアイスクリーム向け需要が拡大

一般食品向け製品例

カラメルソース  
(ボトル品) (顆粒品)



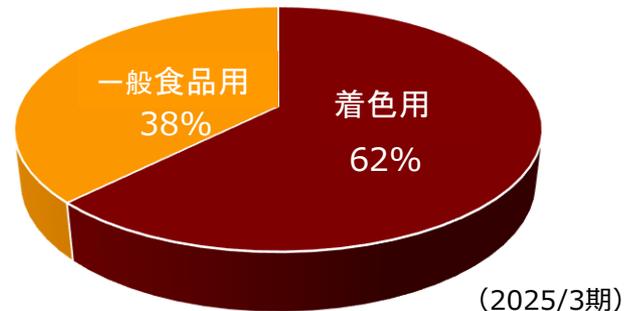
カラメルソース  
(タブレット)



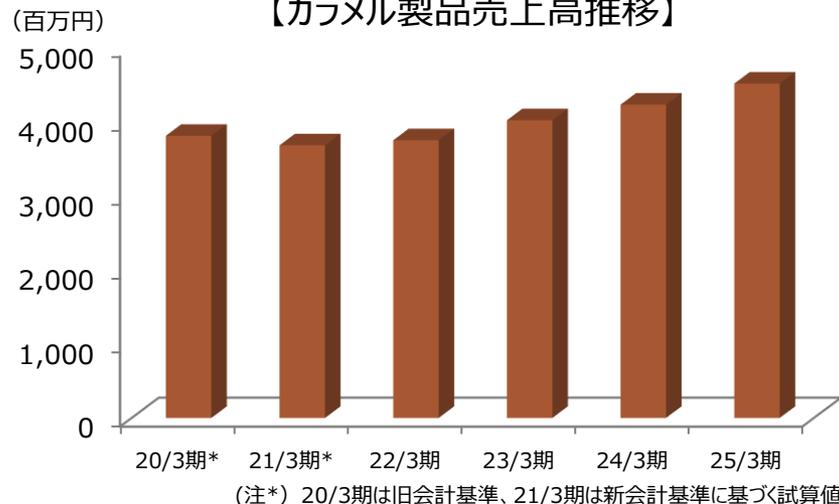
キャンディー・チップ  
(顆粒品)



【用途別カラメル製品売上構成】



【カラメル製品売上高推移】



- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料素材（醤油や味噌）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

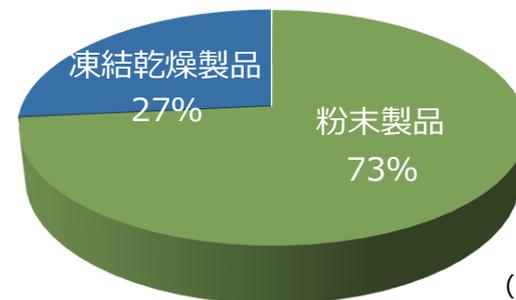
液状化した原料を霧状にし、加熱空気ですべて瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

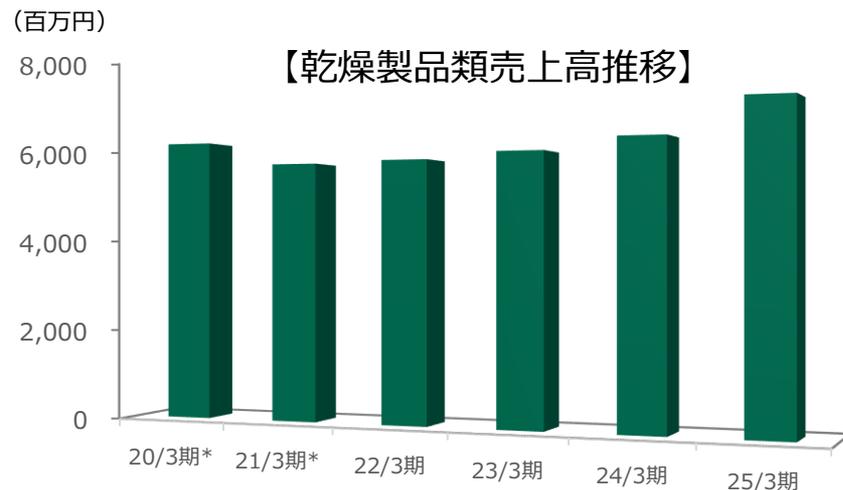
フリーズドライ(FD)技術

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

【乾燥製品類売上構成】



【乾燥製品類売上高推移】



(注\*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

粉末茶

売上高は、非給茶機向けが伸長し、コロナ禍前の水準に回復も、足元では、世界的な抹茶ブームの影響で原料茶葉価格が急騰

自社ブランドの紹介

**聖** シリーズ 【煎茶】 【ほうじ茶】      **稀** シリーズ 【煎茶】 【ほうじ茶】



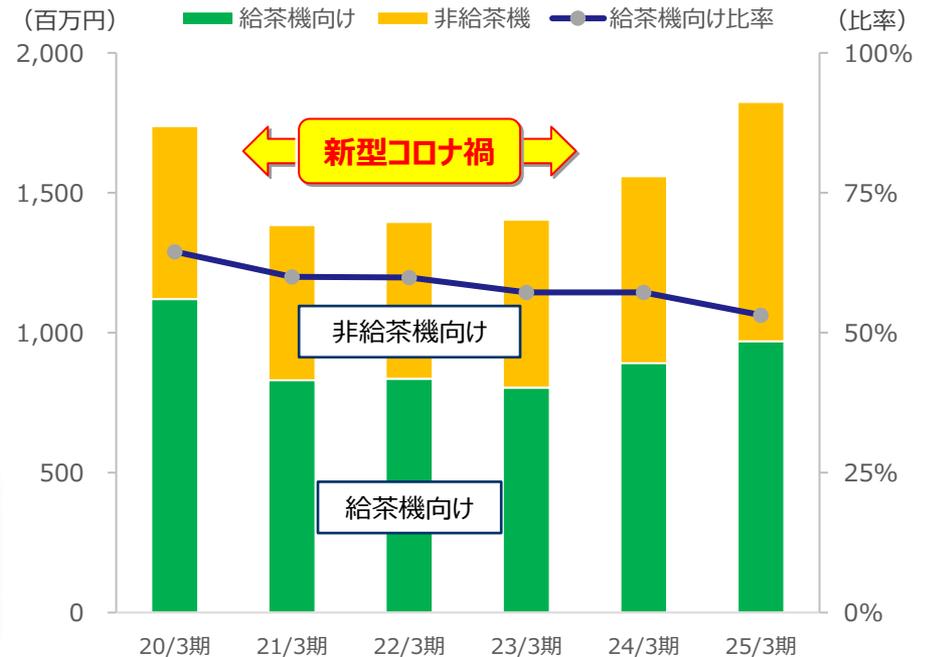
【紅茶】

【玄米茶】

【麦茶】



【粉末茶売上推移】



(注\*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心
- 溶け易くなどの品質とおいしさの両方を追求、レシピ力を活かした提案営業に強み
- ここ数年はスポーツサプリ商材の受注が大きく減少も、26/3期は回復傾向へ

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使いやすい最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、ヘルスケア、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

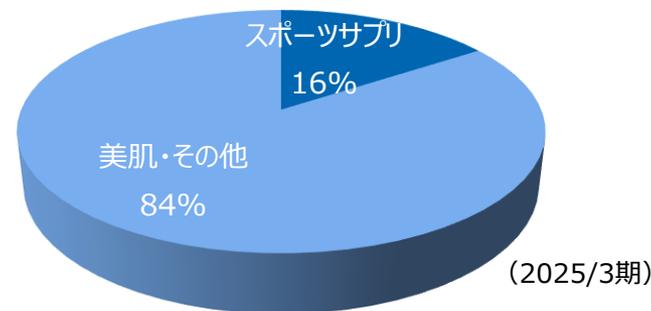
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

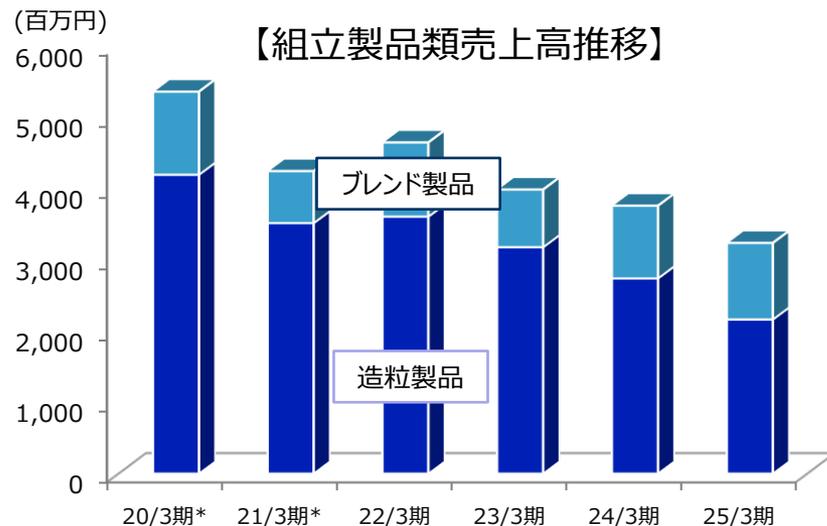
粉末ソース、粉末調味料、唐揚げ粉、みそ汁等



【ヘルスケア商材の売上構成】



【組立製品類売上高推移】



(注\*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

- 冷凍和菓子はメディケア市場向けを中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向けが中心。取扱量は業界2位
- その他は、中国龍和食品の非連結化により減少

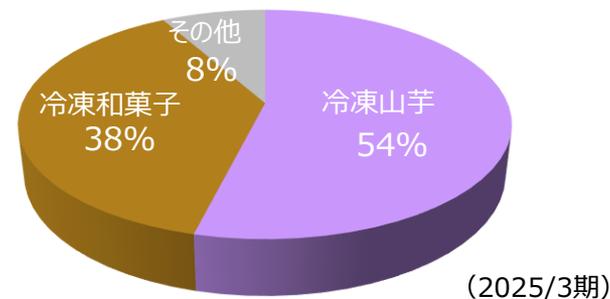
冷凍和菓子



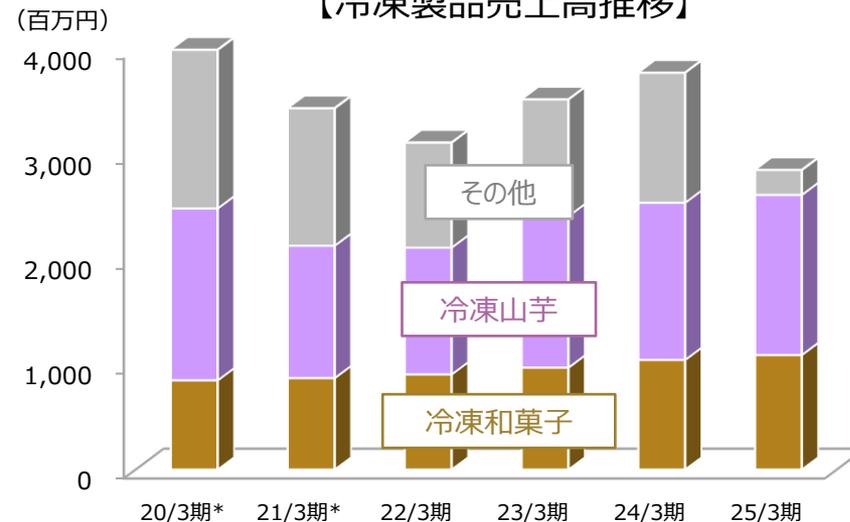
冷凍山芋



【冷凍製品売上高構成比】



【冷凍製品売上高推移】



(注\*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

## Ⅱ. 成長戦略

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

(株価純資産倍率)

(自己資本利益率)

(株価収益率)

現状のPBRは、0.7倍程度

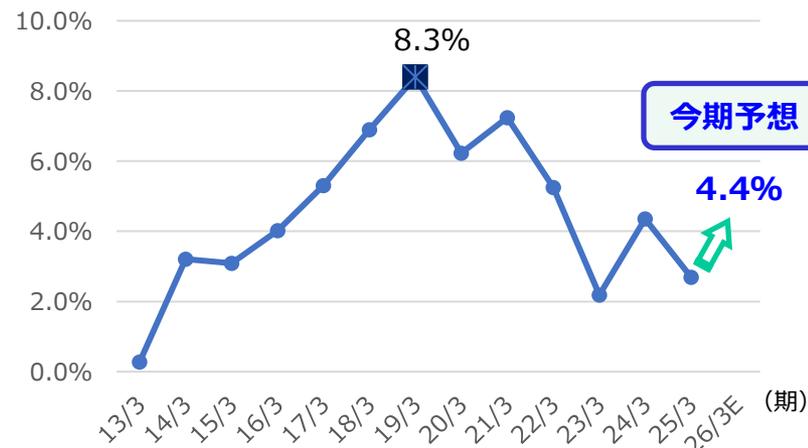
- ROEがピークとなった19/3期中の2018年8月には、PBR1.5倍を記録
- 25/3期のROEは純利益の減少で2.7%に低下



主にROEを高めることでPBRの向上を図る

- ✓ ROEの向上は、営業利益の拡大で達成させる方針
- ✓ PER改善は、投資家様との対話強化が必要と認識
  - ⇒ 中期的な成長戦略や投資家の皆様が収益構造等を理解し易い情報開示を目指す

【ROE推移】



## 基本戦略

## グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

## 自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

## 海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場向け
- ◆ 東アジア市場向け

\* 営業キャッシュフローの最大化を目指す

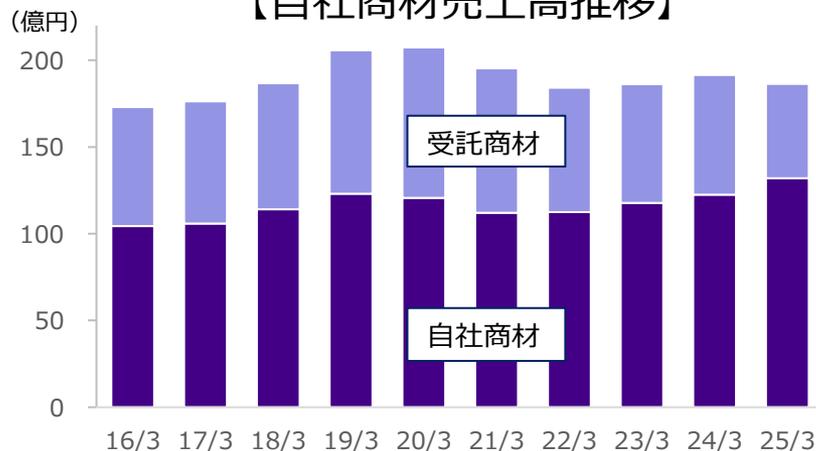
成長投資資金の確保と還元強化

## 海外事業戦略の再構築

- 龍和食品（中国）は、中国向け自社商材の開発が計画通り進まず、パートナーに経営権を前期に移譲するが、日本向け製品の供給は継続へ。
- 福州仙波（中国）は価格競争に対応できず清算を決断するも、上海に販売子会社を新設し、ベトナム子会社からの輸入販売を念頭に中国市場を追求。

注\*) 簡易営業キャッシュフロー：営業利益 + 減価償却費  
( EBITDA )

【自社商材売上高推移】



【海外市場向け売上高推移】

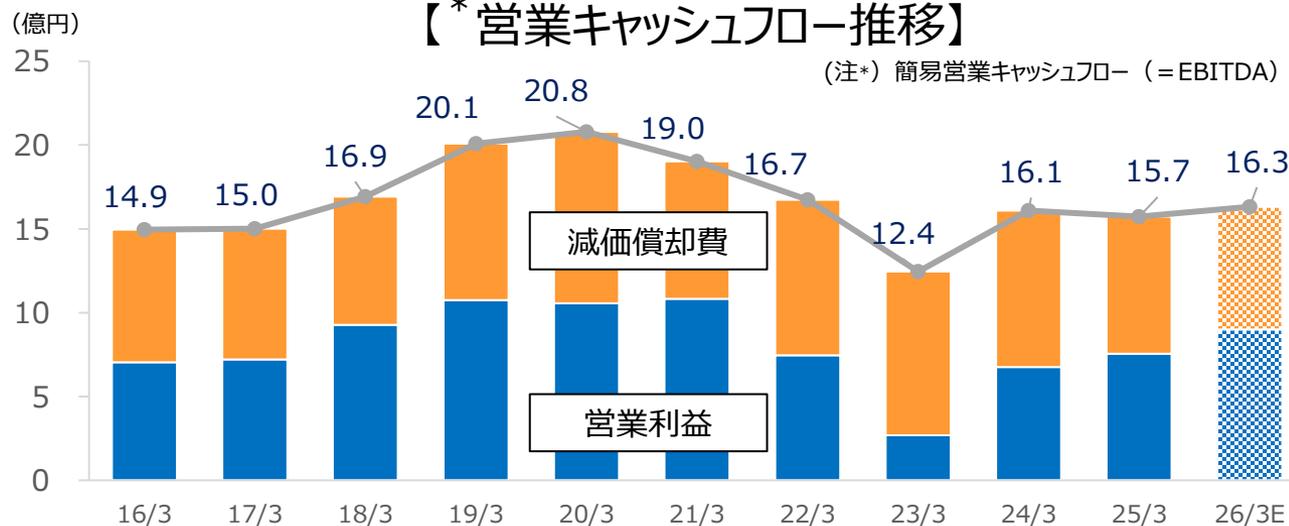
(単位：百万円)

	20/3*1	21/3*1	22/3	23/3	24/3	25/3*2
海外売上高	1,403	1,304	1,338	1,520	1,795	656
海外売上比率	6.8%	7.2%	7.3%	8.2%	9.4%	3.5%
海外子会社	1,342	1,281	1,315	1,496	1,767	632
輸出	61	23	23	22	27	24

(注\*1) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

(注\*2) 龍和食品は、25/3期2Qから連結除外

【\* 営業キャッシュフロー推移】



## 重点施策の進捗状況

### 今期の重点施策

#### ① 高騰する原材料費に対応した適正な価格転嫁（対象製品個別に対応）

- ➡ 主要自社商材の天産物原料価格が高騰、利益率圧迫要因  
取引先様との価格改定に向け、ご理解をいただけるように順次交渉を進めている

#### ② 新規自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化

- ➡ 上期の新規商材上市数は28品であり前期比10品減だが、売上高貢献度は前年同期比の2倍
- ➡ 各種展示会出展を最大限活用し、レシピ提案等を積極的に進めた結果、新規採用件数が増加

#### ③ 中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化

中国事業

- ➡ 製造子会社の福州仙波\*の清算を決定し、上海に貿易販売子会社を新設

福州仙波\*：福州仙波糖化食品有限公司

ベトナム事業との連携でシナジー強化 ⇒ 海外事業全体の収益改善に取り組む

ベトナム事業

- ➡ 生産設備を増強し、海外事業の生産拠点としての生産基盤を強化  
( STVC\*に、2,280千USD (約3億5千万円) の増資を10月に実行 )

STVC\*：SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

# 海外事業の進捗状況

## 中国事業

上海に貿易販売会社「**上海永仙研食品有限公司**」を5月に設立（100%出資）



品揃えとレシピ提案強化で、カラメル市場を切口に新たな需要開拓へ

今期は、既存顧客への供給責任を果たしつつも、  
適正価格への改定交渉を順次進めていく

## ベトナム事業

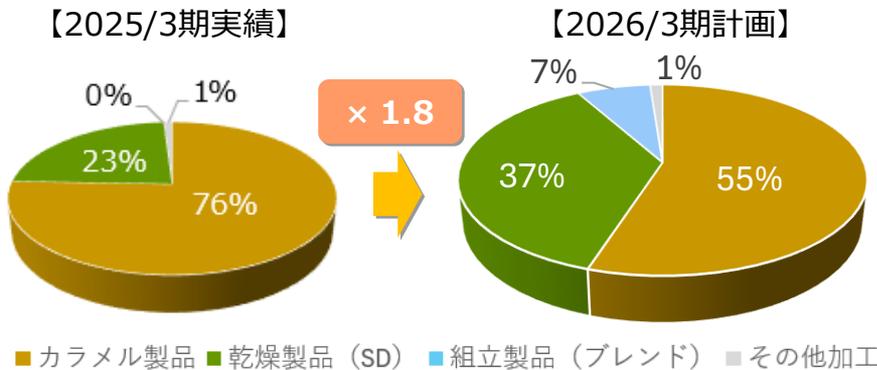
STVCは、海外市場の主幹生産拠点と位置づけ、東南アジア・東アジア向け輸出販売を拡充

### 【STVC出荷金額ベース】

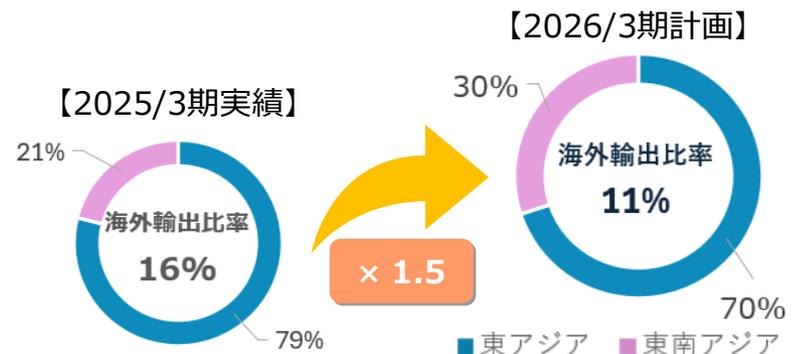
(現地通貨基準)

#### 【製品区分別構成】

出荷額は前期実績比、約80%増を計画



#### 【ベトナム国外向け輸出状況】



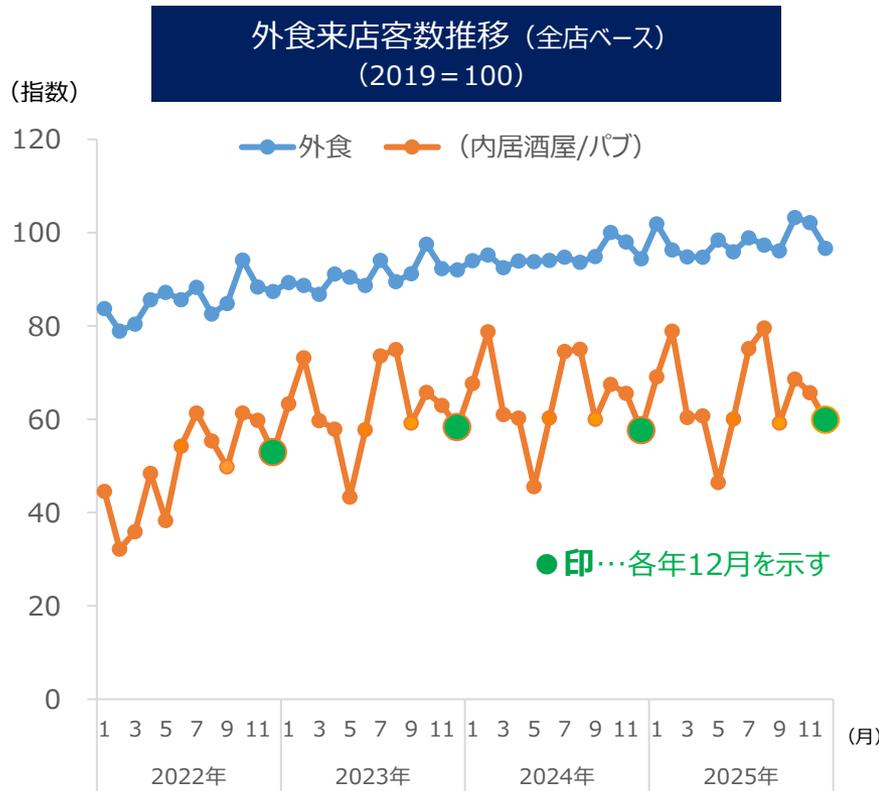
輸出比率は減少も、  
金額ベースでは約1.5倍を計画

### Ⅲ 2026/3期の業績予想

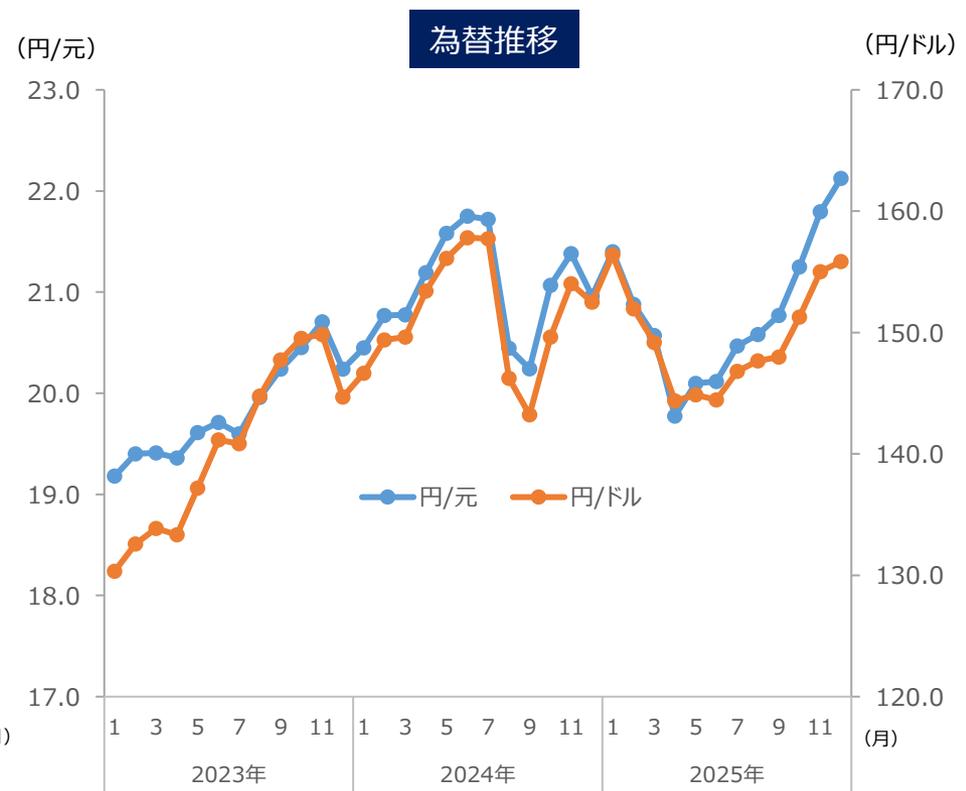
# 業界環境

外食来店客数は、新型コロナ禍前の水準に回復も、居酒屋/パブは季節要因で変動あるが依然 低水準

高市政権発足後は経済対策方針で対ドル円安進行  
人民元は当局の元高容認姿勢で米ドル以上に円安が加速



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会



(出所) 日本経済新聞

# 期初想定の懸念事項の動向

## 懸念材料

(期初想定)

米国関税政策に起因した世界経済への影響・不確実性の高まり

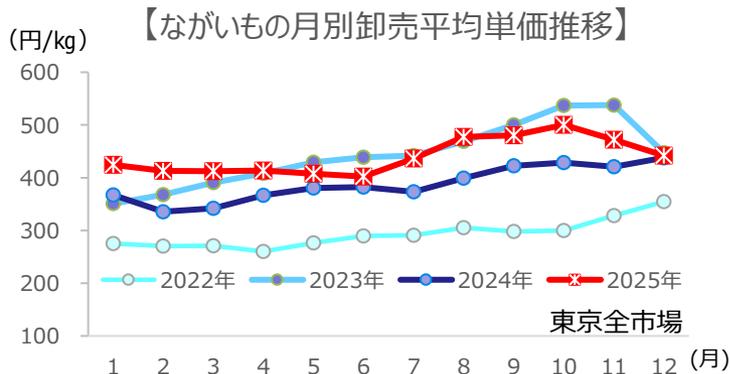
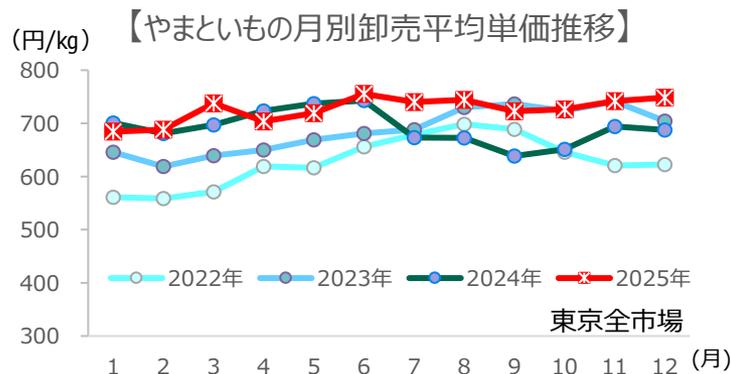
- 国内外の異常気象による農産物価格への影響（原材料費上昇）
- 食品の値上げに伴う消費者心理への影響（販売量の減少）
- 鶏卵需給動向と価格高騰（足元、高止まりの状況）



原材料価格は、  
期初想定 of 懸念事項が顕在化！



## 原料山芋の価格動向



## 第3四半期 決算概況

- ✓売上高は、冷凍山芋の新製品効果や粉末乾燥製品が堅調に推移し、3.2%の増収  
(中国龍和食品連結除外の影響額を控除した事業継承ベースでは、4.8%の増収)
- ✓営業利益は、自社商材の販売増や中国仕入れ商材の円高寄与もあり、23.0%の増益
- ✓経常利益は、為替差損を計上するも、6.1%の増益

(単位：百万円、円)

	2025/3期 (1-3Q)		2026/3期 (1-3Q)				
	金額	前同比 (伸び率)	金額	前同比 (伸び率)	通期 進捗率	3Q	前同比 (伸び率)
売上高	14,320	▲1.4%	14,783	+3.2%	75.0%	5,189	+2.5%
営業利益	658	+12.6%	809	+23.0%	90.0%	388	+8.2%
経常利益	662	▲7.2%	703	+6.1%	85.7%	430	+67.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	392	▲19.9%	438	+11.7%	84.3%	273	+109.3%
1株純利益	34.48	-	38.51	-	-	-	-
減価償却費	612	▲11.3%	579	▲5.3%	-	-	-
研究開発費	216	+11.9%	250	+15.9%	-	-	-

(注) 中国龍和食品は、前期2Q以降持分法適用会社

## 製品区分別売上高予想

売上高および製品区分別売上高は、期初通期予想を据え置く

- ✓カaramel製品は、提案営業推進で国内デザート向け需要増加を計画
- ✓乾燥製品類は、粉末茶が堅調、即席麺向け製品等の需要増加を見込む
- ✓組立製品類は、ヘルスクエア商材受託加工が底打ちも、スープ類の需要堅調
- ✓冷凍製品は、国内冷凍和菓子および冷凍山芋は堅調

(単位：百万円)

	2025/3期			2026/3期予想			
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	伸び率
<b>売上高</b>	9,257	9,443	18,701	9,594	10,106	19,700	+5.3%
カaramel製品	2,222	2,295	4,518	2,199	2,601	4,800	+6.2%
乾燥製品類	3,369	3,584	6,953	3,511	3,839	7,350	+5.7%
組立製品類	1,502	1,737	3,240	1,619	1,681	3,300	+1.9%
冷凍製品	1,632	1,222	2,854	1,664	1,336	3,000	+5.1%
その他	529	604	1,133	598	652	1,250	+10.3%

- ✓ 下期において主力商材の原材料高騰の影響がさらに顕在化  
営業利益は、価格転嫁とコスト改善を進め、期初予想どおり前期比19.1%増益を見込む
- ✓ 経常利益は、海外子会社の為替差損の計上を織り込み減額するも、前期比0.5%増益を予想
- ✓ 当期純利益は、期初予想を減額も、前期比62.7%増益を予想

(単位：百万円、円)

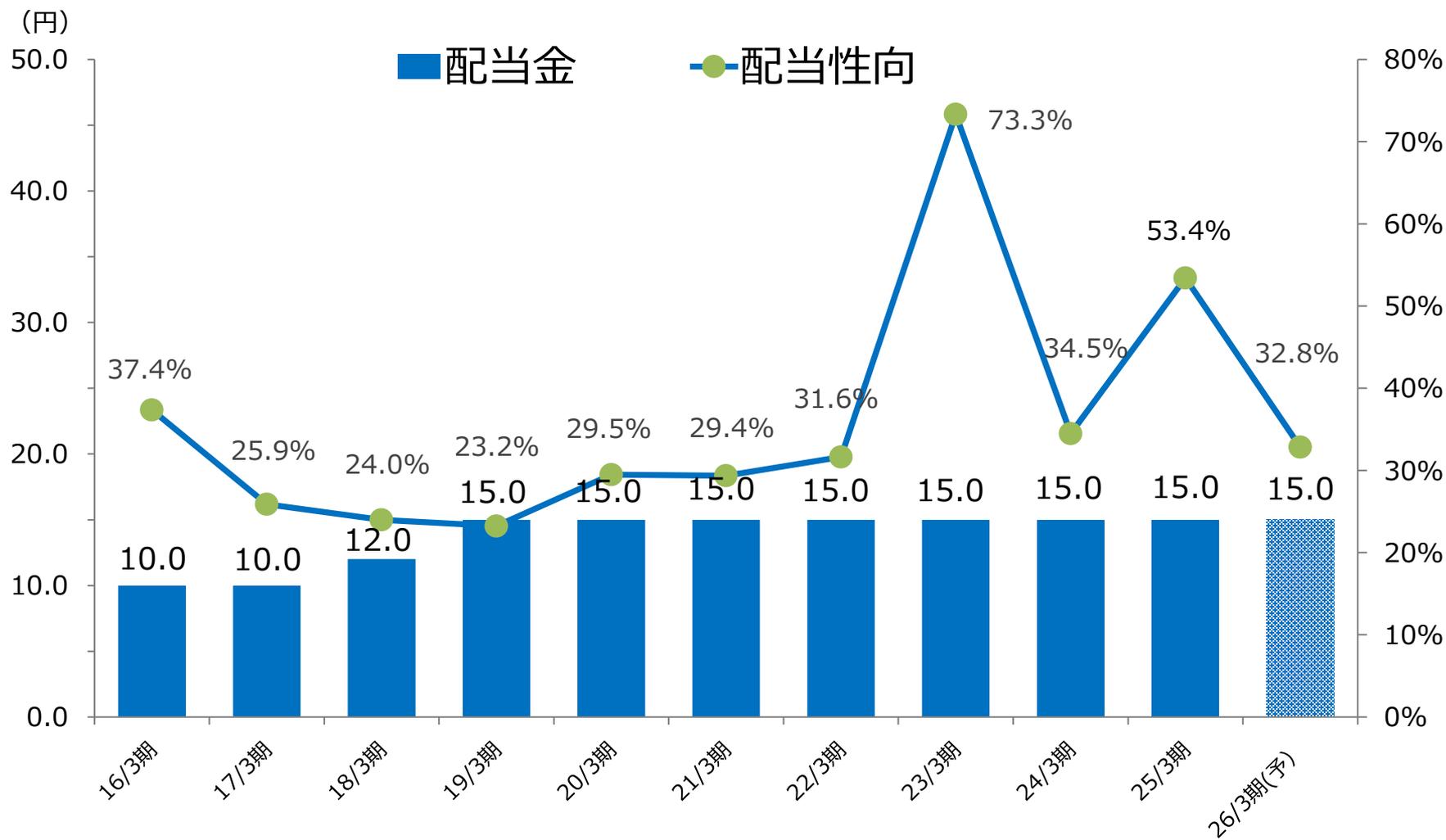
	2025/3期			2026/3期予想				
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	伸び率	期初予想
売上高	9,257	9,443	18,701	9,594	10,106	19,700	+5.3%	19,700
営業利益	299	456	755	421	479	900	+19.1%	900
経常利益	405	411	816	272	548	820	+0.5%	900
親会社株主に帰属する 当期純利益	261	58	319	164	356	520	+62.7%	600
1株純利益	22.98	5.10	28.08	14.45	31.23	45.68	-	52.71
設備投資額			741			676		
減価償却費			817			731		
研究開発費			300			348		

〈為替レート前提〉 25/3期：21.5円/元、155円/ドル、 26/3期(予)：20.7円/元、150円/ドル

## IV. 株主還元

# 配当金予想

## 15円/株を据え置く



## 対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有の株主様が対象

## 優待内容

2021年8月6日に**長期保有の株主様への優待制度を見直し**



※2025年12月の優待品

3年未満保有の株主様  
自社製品 **3,000円相当**



【12月上旬】



※2025年7月の優待品

Mocafoomo (モカフーモ)

自社ブランド アイスクリーム (新商品)

3年以上保有の株主様  
自社製品 **6,000円相当**



(3,000円相当×2回)

【12月上旬】・【7月上旬】



---

---

## 參考資料

---

---

**SDGs宣言**  
仙波糖化工業株式会社  
2023年12月8日

当社は食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカーです。1946年の創業以来、様々な技術で食の世界を支えています。当社の事業を通じたSDGsの達成に向け、下記の取り組みを実施していくことを宣言します。

**資源循環型社会への貢献**

- フードロス抑制の取り組み推進
- フードバンクへの食品寄贈
- 製造過程で発生する食品廃棄物の資源再活用を推進
- 食品安全マネジメントシステム規格FSSC22000認証に基づく安全な食品の継続的な提供

**環境配慮型経営の実現**

- CO<sub>2</sub>排出量の測定・削減取り組み
- 工場・事務の省エネ化
- 再生可能エネルギー活用の検討
- 電子決済等ペーパーレス化の推進
- 工場排水処理の徹底による環境負荷低減

**人的資本に係る対応**

- 女性の働き場への積極参画
- 育児休暇取得推進
- とちぎ健康経営事業所認定取得・維持
- 定期健康診断・二次検診の再受診率100%
- 障がい者雇用の促進

**SDGs経営の実装**

- SDGs取り組み内容の公表
- SDGsの理念に沿った経営理念・経営目標の明文化
- 研修やワークショップによる全社員のSDGsへの理解促進
- 地元高校生のインターンシップ実習受け入れ

SDGsは、2015年に国で採択された「持続可能な開発目標」です。17の目標と169のターゲットから構成されており、2030年までに達成すべき、全人類の共通のゴールとして掲げられています。

持続可能な社会の実現と、当社グループの持続的な成長および企業価値の向上に向けた取り組みとして、SDGs・ESGプロジェクトを発足させ、2023年12月には、「SDGs宣言」を発表しました。当社の事業活動を通して、資源循環型社会への貢献、環境配慮型経営の実現、人的資本に係る対応、SDGs経営の実装に取り組み、社会的課題の解決に向けてSDGsの達成を目指すとともに、取り組み内容をステークホルダーの皆さまに発信してまいります。

## ◆ フードバンクへの食品寄贈

品質には問題ないものの、お客さまへの出荷期限が過ぎてしまった当社の製品、主にどら焼きやドームケーキなどをフードバンクに寄贈する活動を行っております。

## ◆ 健康経営の推進



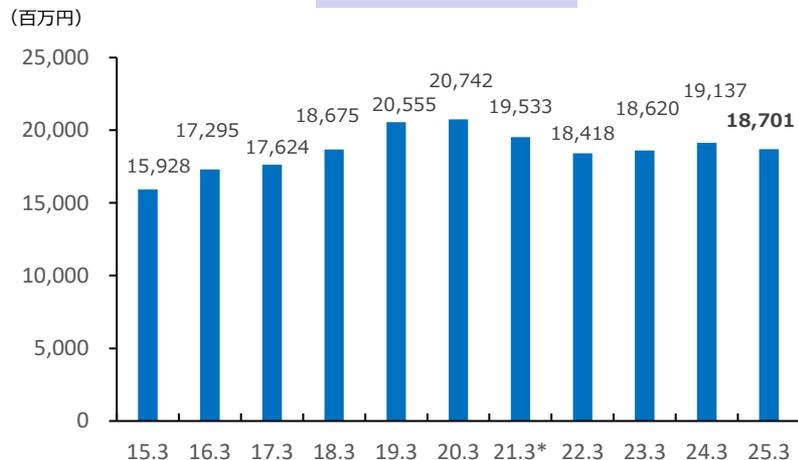
本社所在地の栃木県では、働く世代の健康づくりを推進するため、従業員の健康づくりに積極的に取り組む事業所を「とちぎ健康経営事業所」として認定しており、当社も健康経営の取り組みを通じて、その認定を受けております。



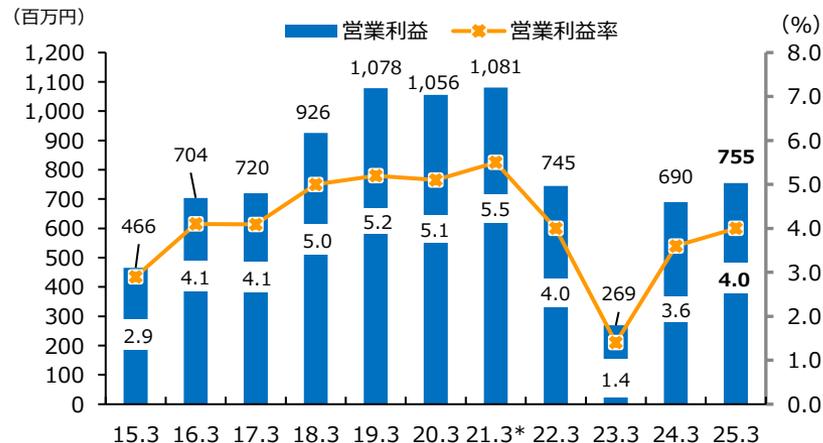
- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カaramelの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末製品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司（福州仙波糖化食品有限公司）を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。
- 2021年 9月 ベトナム新工場完成。
- 2024年 6月 福建龍和食品実業有限公司を持分法適用会社化。
- 2025年 5月 上海永仙研食品有限公司設立。

# 主要財務データ①

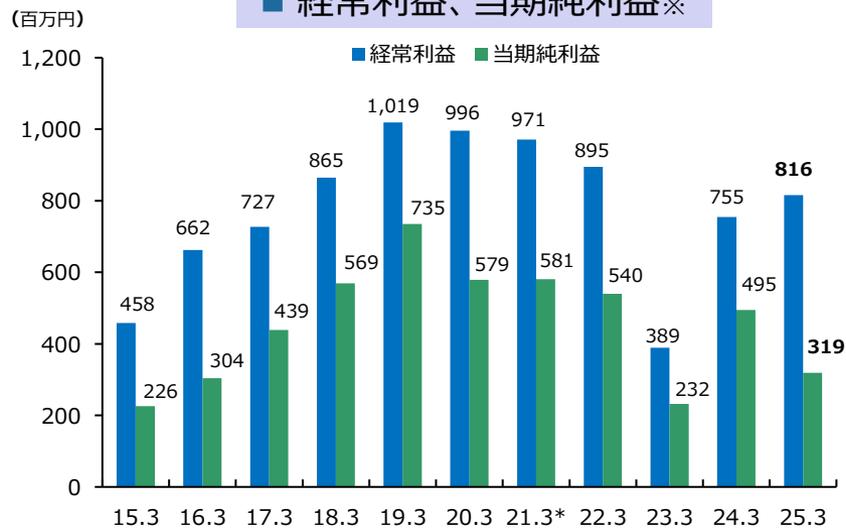
## 売上高



## 営業利益

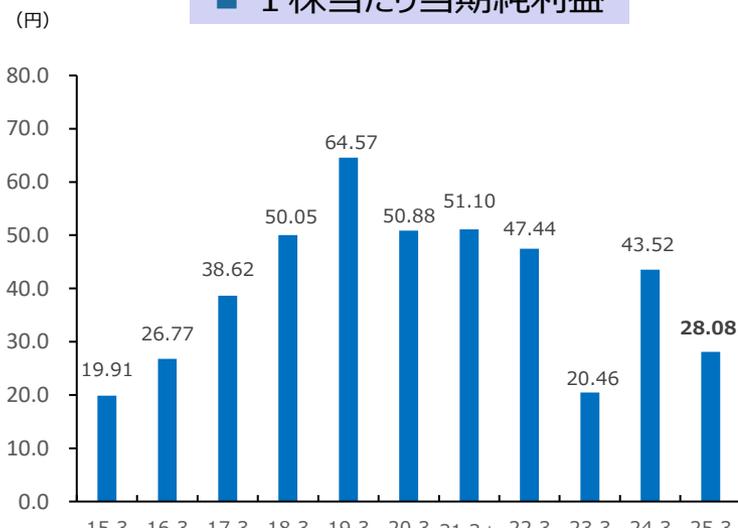


## 経常利益、当期純利益※



(注※) 親会社に帰属する当期純利益

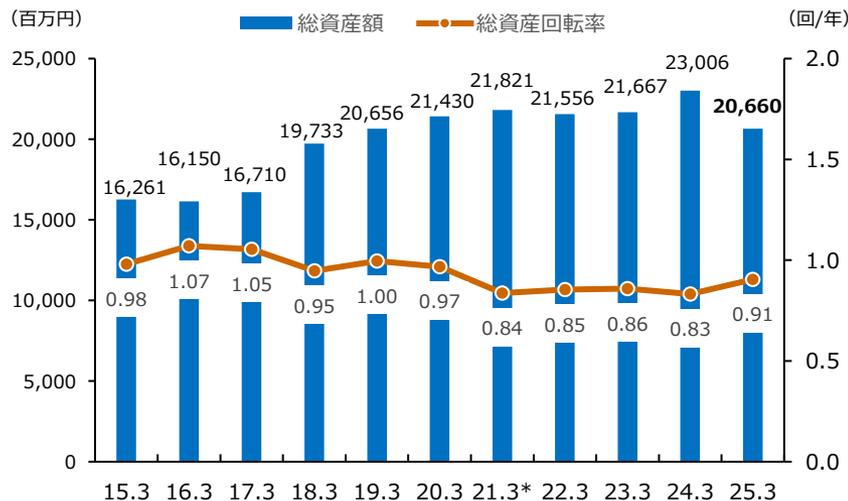
## 1株当たり当期純利益



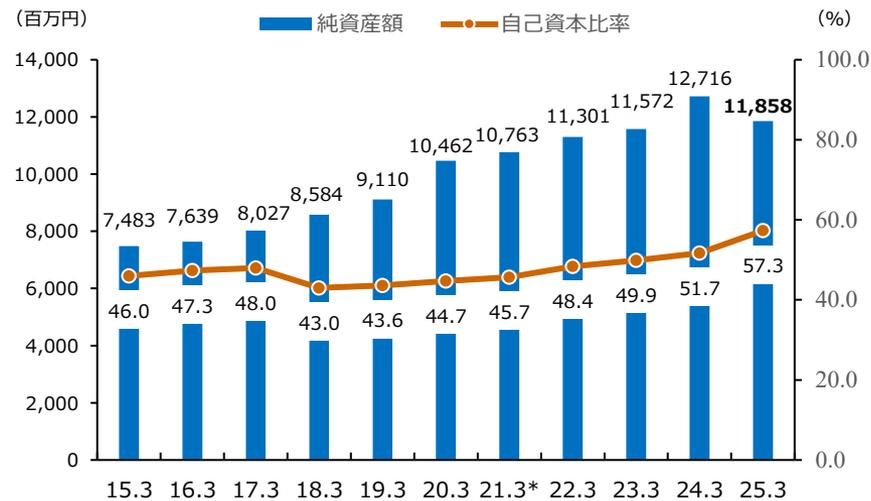
(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

# 主要財務データ②

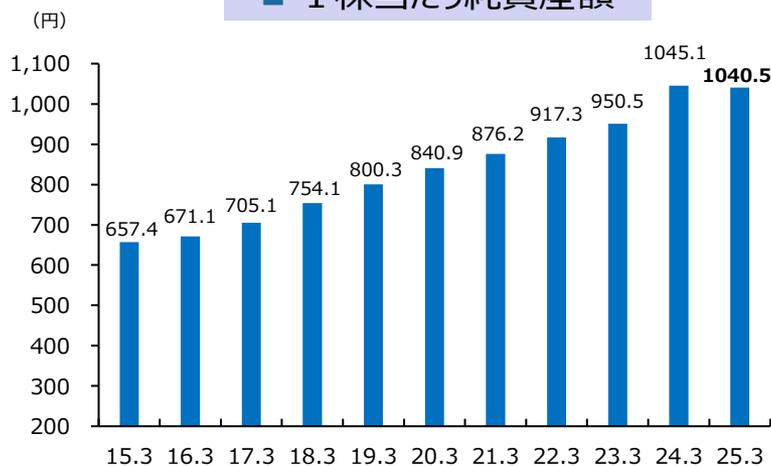
## ■ 総資産、総資産回転率



## ■ 純資産額、自己資本比率



## ■ 1株当たり純資産額



(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉  
仙波糖化工業株式会社  
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : [ir@sembatohka.co.jp](mailto:ir@sembatohka.co.jp)

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。